

会議議事録

1. 会議名 令和5年度第3回中間市地域公共交通会議
2. 開催日時 令和5年11月8日（水曜日）10時00分から11時00分まで
3. 開催場所 中間市役所 別館3階 特別会議室
4. 出席委員（20名）

中間市 建設産業部長	村上 智裕
中間市 建設課長	白石 和也
西鉄バス北九州株式会社 営業担当 課長	小川 裕之
九州旅客鉄道株式会社 筑豊篠栗鉄道事業部長	富永 哲男
筑豊電気鉄道株式会社 運輸車両課長	高野 浩一
有限会社ことぶきタクシー 代表取締役	小林 義人
産業タクシー株式会社 所長	黒土 功
ひかり第一交通株式会社 所長代理	嶋津 善孝
福岡県交通運輸産業労働組合協議会 (西鉄バス北九州労働組合 執行委員)	矢野 陽一
中間市自治会連合会 会長	池田 久紀
中間市自治会連合会 中間北校区長	
中間市自治会連合会 中間東校区長	牧坂 國雄
中間市自治会連合会 中間南校区長	影谷 和久
中間市自治会連合会 中間校区長	仰木 節夫
中間市自治会連合会 中間西校区長	高柳 みさ江
中間商工会議所 組織運営委員会 委員長	藤木 智
中間市社会福祉協議会 事務局長	安徳 保
国土交通省九州運輸局福岡運輸支局 首席運輸企画専門官	井料 達己
福岡県企画・地域振興部交通政策課 交通総務係長	田辺 好徳 (代理) 石川 理生
福岡県北九州県土整備事務所 地域整備主幹	行徳 歩
北九州市立大学 副学長	内田 晃

5. 欠席委員（6名）

有限会社ホームタクシー 代表取締役	高亀 勝
一般社団法人福岡県バス協会 専務理事	中川原 達也
一般社団法人北九州タクシー協会 副会長	貞包 健一
中間市自治会連合会 底井野校区長	松本 康文
国土交通省九州運輸局福岡運輸支局 首席運輸企画専門官	辻 美貴善
福岡県折尾警察署 交通第一課 交通規制係長	高木 拓哉

6. 事務局（4名）

都市計画課長	高橋 隆幸
都市計画課長補佐	江藤 新悟
都市計画課 交通対策係長	志賀 由浩
都市計画課 交通対策係	濱田 達

7. 委託事業者（2名）

株式会社ケー・シー・エス 取締役 九州支社長	松本 好史
株式会社ケー・シー・エス 九州支社 専門職	西本 幸司

8. 会議内容

次第

- (1) 開会
- (2) 報告事項
 - ①市民アンケートの内容決定に至る経過について
 - ②地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の補助申請について
- (3) 議題

中間市地域公共交通計画の策定について

 - ①市民アンケート調査及び交通事業者ヒアリングの結果について
 - ②調査結果及び現況整理から抽出した課題について
- (4) 閉会

会議録

事務局 皆様、こんにちは。
 定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度第3回中間市地域公共交通会議を開催いたします。
 本日の司会を務めさせていただきます、都市計画課長の高橋でございます。
 どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議の前にいくつか諸連絡を行います。

まず、新型コロナウイルス感染症対策によるマスクの着用につきましては、委員の皆様各自の御判断によるものとさせていただきます。

次に、本日、欠席の委員がおられますので、会議資料の中の委員名簿を御覧ください。そこに記載してある番号と併せて御報告させていただきます。

欠席の委員は、7番 高亀委員、10番 中川原委員、11番 貞包委員、19番 松本委員、23番 辻委員、26番 高木委員、以上の6名となっております。

また、24番 田辺委員の代理としまして、石川様に御出席いただいておりますので、併せて御報告させていただきます。

1名、ひかり第一交通の嶋津様が少し遅れて来られますので、御報告いたします。

御出席の委員が20名であり、定数26名の過半数に達しておりますので、中間市地域公共交通会議設置要綱第6条第2項の規定により、本日の会議が成立していることを御報告いたします。

次に、本会議は、要綱第6条第5項の規定により、原則公開としております。

このため、本会議の議事録は、後日、本市のホームページに掲載させていただきます。

また、現在、傍聴の方が3名入室しておりますことを御報告いたします。

次に、配布資料の確認をさせていただきます。

本日の資料につきましては、次第、委員名簿、席次表、資料1、資料2、資料3、資料4、資料5、以上となっております。

お手元の資料が不足している方は、お知らせください。

(資料確認)

事務局 よろしいでしょうか。

それでは、まず初めに、人事異動による事務局職員の変更について御案内いたします。

令和5年10月1日付けの人事異動により、交通対策係長として、宗廣に代わり志賀が事務局に加わっております。

事務局 交通対策係長の志賀と申します。
よろしく願いいたします。

事務局 それでは、議事に入らせていただきます。

御発言される際は、挙手をしていただき、指名されましたら、お手元のマイクのボタンを押して、ランプが点灯してから御発言をお願いいたします。
また、御発言が終わりましたら、ボタンをもう一度押していただくと、ランプが消え、マイクが切れる仕組みになっております。

なお、本会議の進行は、要綱第6条第1項の規定により、会長が議長として行いますので、今後の進行は、本会議の会長であります村上部長をお願いいたします。

会長 皆様、改めまして、おはようございます。
建設産業部長の村上でございます。

本日は、大変お忙しい中、第3回目の交通会議に御出席いただきまして、ありがとうございます。
それでは、早速ではございますが、次第に沿って議事を進めて参ります。

まず、次第の2、報告事項の「市民アンケートの内容決定に至る経過」について、事務局から報告をお願いいたします。

事務局 はい。それでは、市民アンケートの内容決定に至る経過について、口頭にて御報告させていただきます。

前回の第2回地域公共交通会議におきまして、委員の皆様には市民アンケートの内容について御検討いただき、様々な御意見を頂戴いたしました。そして、頂いた御意見を踏まえた最終案について、アンケート実施前に皆様に配布し、御確認いただくこととしておりました。

つきまして、9月11日付けで委員の皆様には修正案を送付し、最終確認をお願いさせていただきました。これについて、内容の修正に係る御意見は特にございませんでしたが、事務局がチェックしている中で、小学校区の分類について表記が正確でなかった部分等がございましたので、軽微な修正を加えた上で、決定稿を作成いたしております。

実際に配布した市民アンケートの内容につきましては、資料2の3ページから14ページにも掲載しておりますので、御参照いただければと思います。

御報告は以上でございます。

会長 はい。ありがとうございました。
それでは、ただいま事務局から報告がありました、市民アンケートの内容決定に至る経過について、御意見、御質問はございませんでしょうか。

(意見・質問なし)

会長 よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、報告事項の「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の補助申請」について、事務局から報告をお願いいたします。

事務局 はい。それでは、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の補助申請について、御報告いたします。
資料1を御覧ください。

地域公共交通確保維持改善事業費補助金の補助メニューのひとつである、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金は、西鉄バス中間線のように市をまたいで運行するバス路線に接続している、本市のコミュニティバスのようなバス路線の運行経費を補助するための国の補助金です。

この補助金をいただくため、コミュニティバスの運行事業者であることぶきタクシー様、産業タクシー様、ひかり第一交通様に御協力いただきながら、毎年11月に申請を行っておりました。

しかしながら、この補助金には申請対象となる条件があり、運行割合が30%未満であったり、1回当たりの輸送量が2人未満であったりする場合は、申請対象外となります。

資料1の右上、黄色い吹き出しに記載しておりますとおり、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から令和4年度まではこの条件が緩和されておりましたが、今年度からは補助要件が以前と同様に適用されることにより、コミュニティバス4系統のうち、通谷・桜台系統以外の3系統が申請対象外となってしまいました。

毎年、第1回目の交通会議で御承認をいただいております「地域内フィーダー系統確保維持計画」を策定する目的のひとつに、この補助金の申請を挙げておりますことから、令和5年度においては申請対象外の路線がありますことを皆様に御報告させていただきます。

なお、事務局としては、今後、交通計画に係るアンケートの結果等を踏まえながら、コミュニティバスの利用促進や運行形態の見直し等について検討を進めて参りたいと考えております。

報告は、以上でございます。

会長 はい。ありがとうございました。
それでは、ただいま事務局から報告がありました、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の補助申請について、御意見、御質問はございませんでしょうか。

(意見・質問なし)

会長 よろしいでしょうか。
それでは、続きまして、次第の3、議題の、中間市地域公共交通計画の策定に係る市民アンケート調査及び交通事業者ヒアリングの結果について、ケー・シー・エス様から御説明をお願いいたします。

委託
事業者 はい。
では、私ケー・シー・エスの方から、市民アンケートの結果と交通事業者ヒアリングの結果につきまして、お手元の資料、こちらにですね、資料2の方で市民アンケート、こちらA3の資料3、こちらで交通事業者ヒアリングにつきまして、御説明をさせていただきます。

まず最初に、資料2ですね、市民アンケートの方から御説明をさせていただきたいと思えます。

先ほど濱田さんの方からも御説明ありましたように、アンケートの方を実施して参りまして、こちらめくっていただきまして、1ページ目、調査内容を掲載しております。

前回の交通会議でも、こういった内容で実施しますよということでお話はしているんですけども、改めましてこの場でも御説明をさせていただきたいと思えます。

まず、調査目的としましては、買い物、通院、通勤・通学などの日常的な移動実態を把握するとともに、公共交通の利用実態であるとか、改善要望などを把握していただくということを目的としております。

対象につきましては、一般市民19歳以上64歳以下、それから高校生、15歳から18歳の高校生、それから65歳以上の高齢者を対象に、配布票数としては、それぞれ800、500、500の合計1,800を配布いたしました。

対象としては中間市全域で、住民基本台帳からの無作為抽出、実施方法としては郵送による配布、郵送による回収、そして回答数を増やすために、バス停等に一定期間、ウェブ回答用のバーナーを掲載したというところでございます。

調査時期につきましては、9月29日から10月13日の締切りで回収させていただきまして、結果としましては、回収数が697、ウェブアンケート35を含んで697票、有効の回収率38.7%ということになっております。

前回の交通会議で回答率の御質問がございました。その際に、回収率として見込んでいたのが30から35%、回答数として500から600ぐらいを見込んでおりますと回答をいたしておりましたが、その程度集まれば、信頼度の高い分析ができるとお話ししておりましたが、その回収率・回答数は上回る結果として今回、調査をすることができたというところを御報告しております。

めくっていただきまして、2ページ目に、設問の構成を記載しております。アンケートの中では、表の左側ですね、水色のところの①から⑤にありますように、回答者の属性、日常の外出実態について、③の高齢者の外出について、④の公共交通の利用について、⑤の今後の中間市の公共交通について、こういったところを設問として設定をいたしております。この内容で3ページ目から掲載しているアンケート調査票にて調査を行いました。

調査の結果につきましては、15ページ。こちらの方から掲載しております。調査結果としては、結構分厚くなっておりまして、時間の都合もありますので、この場で一つ一つの御説明は割愛させていただきますので、後程、御一読いただければと思いますが、これらの調査結果を取りまとめたものを、78ページから調査結果のまとめとして整理をしておりますので、こちらで説明をさせていただきます。

まず最初に、(1) 普段の外出実態についてなんですけれども、1) 買い物においては、市外の店舗よりも市内の店舗を利用される方が多くて、移動手段としては、車の利用ですね、自分で運転したり送迎であったり、車の利用が最も多い状況にあるんですけれども、そのような中、公共交通としては、市内においては筑豊電鉄、市外においてはJRさんの利用がされている傾向にあるということが分かりました。

そのような中で公共交通を利用しない理由としては、現在の移動手段より時間がかかるといった所要時間の増大しているところが大きな要因となっています。それ以外にも、乗り継ぎの面倒さとか乗り場が近くにないことというところも要因として挙げられております。

2) 通院につきましては、65歳未満と、それ以上では傾向が異なっておりまして、65歳未満では市外への65歳以上では市内での通院が多くて、やはりこちらも移動手段としては車利用が最も多く見られました。

一方、通勤・通学につきましては、市内というよりは逆に市外への流動の方が多く見られまして、移動手段としては、市外の通学でJRが利用されている以外は、車利用というところが多く見られた、という結果になっております。

そして、通院、通勤・通学ともですね、公共交通を利用しない理由としては、買い

物と同じように、所要時間がかかる、増大するっていうところが大きな要因となっております。

続きまして、81ページですね、こちらの(2)65歳以上の外出について御説明をいたします。

まず、免許返納につきましては、将来は返納してもいいという意向が過半数占めている中、返納後の移動手段としては、家族等の送迎による車利用よりも、筑豊電気鉄道やタクシー、路線バスといった公共交通を利用したいというニーズがありました。

次に、外出時の不便さについてですが、過半数の方は不便さを感じていないようなんですけども、やはり身体的な負担であるとか、送迎への気兼ねというところを理由に、不便と感じている方も4分の1ほど見られました。

また、支援サービス、買い物や通院を支援するサービスにつきましては、現在は特に利用されていない方が多くを占めていますが、今後に関しては、店舗や、病院等の施設ですね、送迎サービスを中心に利用したい方が増えておりまして、ニーズが高まっていることが伺えます。

続きまして、めくっていただきまして82ページ、(3)公共交通の利用状況につきまして、まず、1)JRにおきましては、利用されている方が過半数を占めておりまして、利用目的としては、買い物や飲食、娯楽、通学が多くて、通学で週5日以上利用されている以外はですね、それ以外の目的には、年に数回程度しか利用されていないということがわかりました。

通学以外は利用頻度は少ないんですけども、日常の足に利用されているといったところが伺えます。

利用されていない理由としましては、自分で運転するから、といった自家用車への依存というところが最も多くて、あとは自宅から駅までの遠さなどが挙げられています。

83ページの筑豊電鉄におきましても、ほぼ同様の傾向が見られました。

めくっていただきまして、84ページ、3)の路線バスについてですけども、こちらは、利用されていない方が逆に8割弱と多くを占めておりまして、利用しない理由としては、JRと同様に、やはり自家用車への依存というところであったり、目的地近くを通っていないということが挙げられています。

目的や頻度としては、JRとは違ってですね、通学は見られないんですけども、買い物や飲食、通院などの日常の足として、年に数回程度利用されているといった回答が得られております。

続きまして、4) コミュニティバスにつきまして、こちらは利用されていない方が90%と大半を占めております。

利用しない理由としましては、他の公共交通と同様、車を利用するといった、自家用車への依存であったり、それ以外に、コミバスの運行ルートであるとか利用方法が分かりづらいといった情報不足も挙げられているところです。

5) ハピネスなかま送迎バスにつきましては、約半数の方が知ってはいるんですけども、そのうちの大半の方が利用されていないという状況です。

利用しない理由としましては、コミバスと同様、車への依存というところも大きいんですけども、あとは運行ルートがわからないといった、運行ルート等の情報不足が挙げられています。

一方、利用されている理由としましては、無償であること、無料で乗れるということが最も大きくて、有償化した場合の利用意向についても、約半数の方は利用しないと回答をされています。

現在、ハピネスなかまへの送迎が目的ではあるんですけども、他に希望する利用目的としては、買い物や駅まで行きたいという意向もありまして、日常の買い物や駅までの足として、無償での運行が期待されているような結果となっております。

次に、85ページ、(4) バスと鉄道の公共交通の乗り継ぎについてですけれども、多くの方が乗り継ぎ利用は今現在されていないという回答になっております。このような中、乗り継ぎに対する要望としましては、乗り継ぎ前後の公共交通のダイヤを合わせて欲しいといった回答とともに、特にないといった回答も多く見られました。

次に、(5) 今後の中間市の公共交通につきましてですけれども、1) 公共交通のサービスの方向性としてしましては、「現状よりも公共交通サービスを充実させるべき」という声が多くて、「同程度の公共交通を維持していくべき」も2割程度の意向があるんですけども、縮小化を望む声よりも、現状と同程度以上の公共交通サービスが望まれているのかな、というところがこのアンケートから読み取れました。

一方、公共交通の財政負担の方向性について、2) で記載しておりますけれども、こちらは、中間市や利用者の負担が増えるよりも、双方の負担がこれ以上増えないような公共交通サービス内容の見直しが望まれています。

3) では、公共交通の利便性を高めるための取り組みを聞いています。ここでは、自宅付近から目的地まで運んでくれる予約型のコミュニティ交通の運行というところが最も多く、次いで、路線バスの増便であるとか、医療施設等の無料

送迎サービスの実施・拡充といった取組みが望まれています。

これらの結果を踏まえまして、86ページ、この調査結果から分かったことをまとめております。

1ポツ目にありますように、普段の外出には車が多く利用されている中、公共交通を利用してない理由としても、自家用車への依存というところが要因となっていますので、過度な自家用車依存から脱却が必要ではないかなというふうに考えます。

また2ポツ目にありますように、普段、外出に公共交通を利用しない理由としては、所要時間の増大であるとか運行時間が合わないなどの時間的な制約、それから乗り継ぎの面倒さ、乗り場が近くにないといったことが要因となっておりますので、そういった利用者の意向に合わせた公共交通ネットワークを再構築していく必要があるのではないかなというふうに考えております。

また、3ポツ目、高齢者は、身体的な負担や送迎への気兼ねなどが要因で、外出時に不便さを感じている中、免許返納後は、家族等の送迎による車利用よりも、筑豊電鉄やタクシー、路線バスを利用したい意向がありますので、高齢者の利用しやすい公共交通サービスを提供する必要があり、また、今後は店舗や施設の送迎サービスといったところも求められているということが分かりました。

4ポツ目、コミュニティバスを利用しない理由としてですね、自家用車への依存のほかに、運行ルート、利用方法等の情報不足が挙げられておりました。こういった中で、コミバスの情報提供がもっと必要なのではないかなというふうに考えております。

5つ目、ハピネスなかま送迎バス、こちらは買い物の足であるとか、駅までの二次交通としてのニーズがある一方、利用している理由としては、無料であることが大きいこと、有償化した場合は利用しないという意向が多いことから、ハピネスなかま送迎バスの地域の輸送資源としての活用には、やはりちょっと慎重な検討が必要なのではないかなというふうに考えております。

6つ目のポツですけれども、今後の中間市の公共交通につきましては、現状と同等、もしくは現状以上の公共交通サービスが望まれてはいるものの、市や利用者の負担増よりも、双方の負担がこれ以上増えないような公共交通サービス内容の見直しが求められておまして、財政的な制約も踏まえつつも、既存の交通機関の維持、充実といったものが必要であるのではないかと考えております。

最後に7ポツ目、公共交通の利便性を高める取り組みとして、自宅付近から目的地

まで運んでくれる予約型のコミュニティ交通の運行というものが最も多く、やはりドア to ドアに近い、自由度の高い公共交通サービスの提供が望まれているんだと分かりました。また、路線バスの増便であるとか、医療施設等の無料サービスの送迎、送迎サービスの充実・拡充といったところも望まれていることが、アンケートの結果から分かりました。

最後に、67ページから77ページに、沢山の自由意見をいただいております。中間市への要望・意見というところで、今、一つ一つは御説明しないんですけども、貴重な御意見をいただいておりますので、後程併せて御覧いただければ、御一読いただければと思います。

アンケートにつきましての御説明は以上になります。

続きまして、交通事業者ヒアリングの結果概要につきまして、こちらの資料3で御説明をさせていただきます。

交通事業者様へのヒアリングにつきまして、10月の5日、11日の2日間に渡りまして、ヒアリングを実施させていただきました。お忙しい中、お時間をいただきまして、貴重な御意見を賜りまして、ありがとうございました。

その際に、聞き取りした御意見を、結果概要としまして、資料3に取りまとめておりますので、この中から御説明させていただきたいと思っております。

いただきました意見をそれぞれの事業者様ごとに、左側から利用特性、現状の課題、取り組んでいる内容、それから、要望等をまとめております。

まず、中間市の利用特性としまして、JR筑豊本線は朝夕の学生が多い一方で、筑豊電鉄ではその学生の利用はほとんど見られず、それ以外の利用が見られ、また、バスにつきましては、昼間の高齢者がメインであるということがヒアリングの中で聞かれました。

タクシーについては、裏面になるんですけども、平日の午前中の高齢者の買い物であるとか、通院がメインとなっています。

コミュニティバスについても、タクシーと同様、高齢者の買い物や通院がメインとなっております。

タクシー事業者の方が共通でおっしゃられたことは、買い物客の目的地について、以前はイオンの利用者が多かったんですけども、リニューアル工事のために閉店

中、買い物客が分散してしまっていて、特に八幡西区を中心とした市外への利用が増えて、イオンがリニューアルオープンした後もその傾向は継続しているようだといったところが聞かれました。

次に、現状の課題等としましては、皆様やはり乗務員不足であるとか、乗務員の高齢化といったところが中心に挙げられております。

筑豊電鉄様からは、それ以外にも、市民に知ってもらう機会がないので、市さんの協力の下、認知向上のためのPRが必要なのではないかという御意見があったり、西鉄バス様の方では、このまま利用者が減少してしまうと補助対象外となることを危惧されておりました。

このような中、取組みの列に記載しておりますように、皆様色々な各種取組みに御尽力いただいているところでして、市や計画への要望としましても、先ほどの課題を受けて、一番右に記載しておりますが、筑豊電鉄様のところにありますように、市政だよりも公共交通の現状と利用促進を促す特集を組んで欲しいであるとか、西鉄バス様の方にありますように、AIオンデマンドサービスなど、他モードの検討も必要なのではないかといった御要望を聞いております。

今回いただきました、こういった御意見を踏まえまして、中間市の公共交通の課題や方針、施策を検討する際の材料としていきたいと考えております。
貴重な御意見をいただきまして、交通事業者の皆様、ありがとうございました。

こちらの結果概要の説明は、以上になります。

なお、現在、ことぶきタクシー様、それからひかり第一交通様の御協力の下、コミュニティバスの利用者アンケート調査を実施しております。
御協力いただきまして、ありがとうございます。

また、今後、バスの利用者アンケート、中間市の高校に通う高校生のアンケート、子育て世代に向けたアンケート、地域輸送資源の事業者へのヒアリングを予定しております。これらの結果も踏まえつつ、交通計画の検討を行っていきたいと考えております。

私からの説明は以上になります。
御審議のほどよろしく願いいたします。

会長 ケー・シー・エス様、ありがとうございました。
それでは、ただいまケー・シー・エス様から説明がありました市民アンケート調査及び交通事業者ヒアリングの結果について、掻い摘まんでということではございま

したが、御意見、御質問はございませんでしょうか。

委員 無いようでしたら、私の方から。北九州市立大学の内田です。
1 ページの「調査概要」のところで、市民と高校生と高齢者に分けていますが、それぞれの回答率は分かるのでしょうか。

委託
事業者 ありがとうございます。
それぞれにつきまして集計をしております、口頭ですけれども、お伝えさせていただきます。

一般市民の方が294票で、回収率が800に対して36.8%。
高校生が128票、500票に対して25.6%。
高齢者につきましては268票、500票に対しまして53.6%という結果になっておりまして、やはり、高齢者の方の回収率が高かったというところになっております。
以上です。

委員 はい。ありがとうございました。
やはり、高齢者の意識といいますか、関心の高さというものが分かったのかなと思います。

下の方の有効回収率、これは分けて書いてもいいのかなと思います。
全体の回収率とそれぞれの回収率と、分けて書いてもいいのかなと思いました。

ただ、この有効回収率は、1,800で割るのではなくて、多分1,835で割らないといけないのではないかと思います、いかがですか。

委託
事業者 そうですね。分かりました。ちょっと検討します。
1,800票と、ウェブで35票がプラスで追加されてるからというところですよ。

委員 そうです。ちょっと回収率の数字は下がりますけど、厳密に言うと、35票はウェブで調査票をもらってない人が答えている訳ですよ。

委託
事業者 そうですね。
分かりました。その辺を踏まえて、修正をいたします。
ありがとうございます。

会長 ありがとうございます。
他に御質問ある方いらっしゃいませんか。御意見でも結構でございます。

はい。お願いします。

委員 福岡運輸支局の井料です。

資料の82ページ目以降ですけれども、公共交通の利用状況ということで、JR様であるとか、筑豊電気鉄道様であるとか、それから路線バスを利用されている方の割合が書かれていて、全体を通して6割とか4割弱とか書かれているんですが、多分、自家用車をお持ちの方は利用されていないと回答されてると思われませんが、年代別で利用されている方の割合が変わってくるかと思うんですけれども、この辺は何か、年代別で数値が上がってるとかっていうのがもしあれば、教えていただきたいと思います。また、特に高齢者の方の利用が多いとか、そういったことがあれば書き込んで良いのかなと思いますが、もしそこが分かれば、教えていただければと思います。

委託
事業者 はい。
ありがとうございます。

そうですね。すみません。今、取りまとめている中では、公共交通の利用状況を年代別にまではクロス集計をかけていないところでして、買い物先とかそういったところには集計をかけていたんですけれども、まだクロス集計をかけきれていないところがありますので、今後その辺の分析を行って、回答するようにいたします。

ありがとうございます。

会長 はい。また詳細な分析が行われるということでございます。

他にございませんでしょうか。

よろしゅうございますでしょうか。

それでは、続きまして、調査結果及び現況整理の内容から抽出した課題について、事務局から御説明を申し上げます。

事務局 はい。ただいまケー・シー・エス様から御説明いただきました調査結果に加えまして、資料4「中間市地域公共交通計画【現況整理】(案)」から課題を抽出しておりますので、資料4について、重要な点を3つほど、掻い摘まんで御説明させていただきます。

それでは、資料4の13ページを御覧ください。

13ページの上段に「将来人口の推移」を記載しております。本市の人口減少は今後も続いていくことが予想されており、同じく13ページ下段の図に示されているとおり、高齢化率も緩やかに上昇していくことが予想されております。

続いて、21ページを御覧ください。

21ページの上段に通勤者の移動特性の図をお示ししております。中間市から他の地区へ向かっている矢印は、中間市から出ていく通勤者を表しており、逆に、他の地区から中間市に向かっている矢印は、中間市に入ってくる通勤者を表していません。

また、中間市の下にカッコ書きしている「3751」という数字は、中間市内から中間市内へ通勤している方が3,751人いることを示しております。

この図から、本市の通勤者のうち、3割弱が市内へ通勤しており、7割強は市外へ通勤していることが分かります。特に北九州市八幡西区については、流出・流入ともに移動が多く見られ、八幡西区への通勤者は市内通勤者よりも多くなっております。

1ページめくっていただきまして、22ページの下段、「運転免許返納状況」を御覧ください。こちらに記載しておりますとおり、本市の運転免許返納者数は、毎年180人程度となっており、ほぼ横ばいで推移しています。

それでは、以上のポイントを踏まえまして、資料5「中間市の地域公共交通の課題について」を御覧ください。

まず、この地域公共交通計画の目的といたしましては、中間市内の地域公共交通の維持・確保及び利便性の向上です。平成28年3月に策定した中間市地域公共交通網形成計画の後続計画として、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づいて、現在策定を進めております。

計画期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間で、計画区域は、中間市全体としております。

次に、今回の計画策定の基礎となる、本市が抱える課題について5つの項目に分けて抽出いたしましたので、その内容について御説明いたします。

まず1つ目は「市民・利用者のニーズを踏まえた地域公共交通ネットワークの再構築」についてです。

人口減少の影響もあり、公共交通の利用者は年々、減少傾向にあります。また、市民アンケートでは、公共交通を利用しない理由として「現在の移動手段に比べて時間がかかること」が最も多く挙げられていました。交通事業者へのヒアリングにおいては乗務員不足等の声が聞かれており、たとえ現状の公共交通を維持できたとしても、利用者は減少し続け、利便性の向上も見込めません。

よって、市内の公共交通を確保し、利便性を向上させるためには、市民のニーズを踏まえた交通ネットワークの再構築が必要だと考えておりますので、1つ目の課題とさせていただきます。

次に、2番目の「過度な自家用車依存からの脱却」についてです。

買い物、通院、通勤等の半数以上は自家用車による外出であることが市民アンケートから明らかになっており、特に通勤においては、八幡西区などの隣接地への流れが多いにもかかわらず、公共交通があまり利用されておられません。

また、自家用車に依存した生活では、高齢になってもなかなか免許を返納できないという状況が考えられます。

利便性等において公共交通が自家用車を上回ることは難しいという側面はありますが、公共交通を移動の選択肢のひとつとして捉えてもらえるよう、現状を変えていくためにも、2つめの課題として「自家用車依存からの脱却」を設定させていただきました。

次に、3番目の「財政的な制約を踏まえつつ、既存の交通機関の維持・充実が必要である」という点についてです。市民アンケートにおいて「今よりも公共交通サービスを充実させるべき」という意見が多い一方で、財政負担に関しては「これ以上、市や利用者の負担が増えないよう、サービス内容を見直すべき」という意見が最も多くなっておりました。

これはつまり、「市や利用者の負担を増やさずに公共交通サービスを充実させる」という非常に困難な課題であり、1つ目の課題として挙げました「交通ネットワークの再構築」を考える際のひとつの指標にもなると捉えております。

次に、4番目の「更なる高齢社会に向けた交通サービスの充実」についてです。市民アンケートにおいて、65歳以上の方に「免許返納後の外出に利用すると思われる交通手段」を尋ねたところ、家族による送迎よりも公共交通を利用したい意向があることが分かりました。今後、少子高齢化が進行していくことから、高齢者が使いやすい交通サービスの充実を課題のひとつとして挙げております。

最後に、5番目の「地域公共交通の利用啓発」についてです。

今回の市民アンケートによって、コミュニティバスやハピネスなかま送迎バスについて市民の方があまり把握しておらず、交通手段に関する情報提供がかなり不足していることが分かりました。

また、交通事業者ヒアリングにおいても、公共交通の現状と利用促進について市政だよりも特集記事を掲載するよう望む声が上がっていることから、積極的な利用啓発について、課題に盛り込むべきと考えております。

課題の説明については以上となりますが、アンケートの調査結果や現況整理の内容など、かなりボリュームのある資料から抽出した課題について御検討いただきますので、本日も質疑応答の時間はもちろん設けますけれども、もし後日、資料を読み込んでいただく中でお気づきになった点や御意見などございましたら、事務局まで御連絡いただければと思っております。それによって新たな課題設定や変更等が必

要と考えられる場合は、改めて次回の会議で報告させていただこうと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

事務局からは以上です。

御審議の程、よろしくお願ひいたします。

会長 はい。ありがとうございます。

ただいま事務局から説明がありました調査結果及び現況整理から抽出した課題について、これについても、詳細はまた後日でも構わないということでございますが、現状で御意見、御質問はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

委員 北九州市立大学の内田です。

先ほど説明がありましたが、運転免許の返納状況の数字が毎年170人ぐらい、180人前後ということで、これをどう見るかということだと思います。

市内の高齢化率が今、40%ぐらいですから、4万人の40%としたら、1万6,000人。ですから、1%しか変動していない。免許保有者がどれぐらいいるかということになると、もう少し数字は、母数が減ってくるのかもしれませんが、やはり運転免許の返納者数ではなくて、高齢者の保有割合がどれぐらい変動しているのかをきちんと、数値として見ないといけない。

その上で、これだけ返納が進んでない原因は何なのか、あるいは、免許返納しているから、やはり高齢者向けの公共交通サービスも充実させないといけないという議論や理屈にはすぐには結びつかないと思うんですね。

これだけ免許返納者が少ないという状況を考えると、そこはやはり、きちんと考えないといけないのかな、と。

アンケートでも、免許返納したとしても、近くの家族などが、車で連れて行ってくれる人がいるかどうかということもアンケート調査の中にありましたので、その点も結びつけて、少し細かい分析が必要なのかなと思いました。

以上です。

会長 ありがとうございます。

今の御意見について、事務局から何かございますでしょうか。

委託
事業者 ありがとうございます。

今いただきました御指摘、免許返納者の高齢化率との関係ですね、そういったところも精査しながら、検討していきたいと思います。
よろしく願いいたします。

会長 はい。さらに検証を深めるという回答でございました。
よろしいでしょうか。

他に御意見、御質問等ございませんでしょうか。

委員 JR九州の富永です。

課題の解決の方向性ですが、今回、この4番にあるように、高齢者に対するサービスの充実に重きを置くということでのいいのでしょうか、という確認です。

最初に、買い物・通院・通勤・通学の移動手段全体を調べられていますが、最終的には、交通ネットワークの再構築の時に、高齢者に対するサービスを重要視するのか、それとも、広くどの世代に対しても、利用しやすいところを狙うのかということについて、今の時点で何か考えてあることがあれば教えてください。

会長 はい。今の内容について、回答をお願いしますでしょうか。

委託
事業者 はい。ありがとうございます。

4番の中では、確かに高齢者に絞った表現になっているんですけども、1番の課題の中で、広く市民・利用者のニーズを踏まえたネットワークの再構築が必要になってくる。その上で、更に高齢者に対しても、免許返納であるとか、先ほど内田先生からいただいた御意見を踏まえて、アンケートと紐づけながら、やはりきめ細かい公共交通サービスが中間市においては必要なのではないかと考えました。

そこで、1番だけではなくて、この4番に特筆して、更に高齢者に向けた交通サービス、例えば、公共交通のサービスだけではなくて、アンケートの中でもありました、支援サービスですね、送迎サービスなどのニーズが高まってきておりますので、そういったところも踏まえた中で、高齢者・交通弱者に対しても、きめ細かいサービスができるようなところが課題として挙げられるのではないかと考えて、4番を設定いたしました。

よろしいでしょうか。

委員 内容は分かりました。
ただ、少し思うのが、最初にあった公共交通の利用を上げるということを考える意味では、双方の負担の制限がある中で、どこか上がりやすいか、と言ったら変ですが、

負担増はあまりしない中で、上がりやすいところを利用しやすいようにしてあげる方がいいのではないか、そこは強弱を付けた方がいいのではないかと思いました。

委託
事業者 すみません。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。
ケー・シー・エスの松本といたします。

今、御意見いただきました通り、当然、数から言えば、例えば通勤者などは、やはり移動する人の割合が多いわけですね。
そういった方々も当然、視野に入れていくといったことは、御指摘のとおり、十分検討する必要があると思っております。

もう一方で、高齢者につきましては、先ほど内田先生からお話がありましたように、今、社会的問題にもなっている、高齢者の交通事故という問題もあります。
例えば、現況を整理しました冊子の23ページに、交通事故の状況をお示ししております。やはり、高齢者の方の事故の割合が、微増ではありますが、若干増えつつあるという傾向があります。

したがって、先ほど内田先生からお話がありましたように、もう少し免許返納にもちゃんと分析を入れて、こういった免許返納を更に促進できるようなことも検討していきたいというのが、根底に少しあるところではございます。

会長 よろしいでしょうか。
他には。はい、どうぞ。

委員 東校区の牧坂といたします。

資料2の中で、8ページに65歳以上の方のみお答えくださいとありますが、5番目に不便だと感じる内容についてということで、1. 徒歩や自転車での移動が身体的に辛くなってきたとか、あるいは、荷物を運ぶのがきついかいということがあって、その下の6番目に、食品宅配サービスとか、移動販売車とか、店舗への送迎バスとか書いてあるんですけど、私の地区でも電停まで行くにはかなり距離があって、そこにおられる方も年取ってきたら足腰が弱くなって、買い物した後に荷物を持って帰るのが大変らしいんですね。

それで、一つの案としてここに書いてありますけれども、店舗への送迎バス、フレンドリー号などの市内の循環バスもいいのですが、買い物への送迎バスといたしますか、それをどこかで、全市広いで、循環バスとかそういうものは全市を網羅するわけにはいきませんので、そういった買い物への送迎バスのようなものを何か検討はできない

いのでしょうか、ということです。

会長 はい。今の御質問については、何か御検討はありますでしょうか。

事務局 はい。今いただいた御意見ですけれども、具体的な策ということでお話いただきましたので、計画の中では、これから詰めていく具体的な施策の中で検討していくような内容になるかと思います。

いただいた意見も踏まえて、店舗に特化した交通ということになりますので、なかなかそういったものを、店舗が主体でやられるということはあるかもしれませんが、民間の事業者のところにもどれだけ公共交通として関われるかというような課題ももちろん出てくるとは思いますが、そういった部分も踏まえて、施策として考えられる部分は考えていこうかなというところではありますが、やれること、やれないこともあるかと思いますが、そこも踏まえた上で、また施策を具体的に考えていければと考えております。

委託
事業者 すみません、少し補足です。
ケー・シー・エスの松本といいます。

どうもありがとうございます。
切実な御意見だと思います。

アンケートの結果について、資料2の43ページにそのアンケートの結果を載せております。

ここに青いグラフがあると思いますが、今お話いただきましたように、やはり高齢者の方は、荷物を運ぶのがきついと回答されてる方が6割以上いらっしゃるんですね。また、同じように、徒歩や自転車での移動が身体的にきつくなってきたという回答をしている方も半分ぐらいいらっしゃいます。

非常にこの辺りは、御意見いただきました内容を切実に感じ取っておりますので、今、中間市さんの方からもお話ありましたように、それだけに特化して、というのはなかなか難しいとは思いますが、総合的に判断をしながら、施策の検討を進めさせていただきたいと思っております。

会長 ほかに御質問よろしいでしょうか。

それでは、今の課題については更にまた詳細を深めて、検討させていただくということで、一定の課題整理ということではございますので、これについての御異議がないかどうかということで、御承認の確認をさせていただきたいと思っております。

ただいまの、調査結果及び現況整理から抽出した課題について、御異議はございませんでしょうか。

(異議なし)

会長 それでは、御異議が無いようですので、これを承認とさせていただいて、更に深めていくという形にさせていただきたいと思えます。

委員の皆様、ありがとうございました。

それでは、本日の議題は、全て終了しましたが、会議全体を通じて、また色々と御質問、御意見、情報提供等ございましたら、よろしくお願ひいたします。

よろしいでしょうか。

御意見、御質問等、ございませんでしょうか。

それでは、今日の資料、かなりのページ数に及びますが、もし、先ほど事務局からもありましたように、またお読み置きいただいた中で、御意見があれば、後日でも構いませんので、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして、本日の地域公共交通会議の議題は、すべて終了させていただきます。

委員の皆さん、大変お忙しい中、御出席いただきまして、ありがとうございました。今後とも様々なお立場から、また御意見賜りたいと思えますので、よろしくお願ひします。

それでは、進行の方を事務局にお返しいたします。

事務局 はい。

委員の皆様、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第3回中間市地域公共交通会議を閉会いたします。どうも、お疲れ様でした。